## 学校関係者評価報告書

学校法人南京都学園 京都福祉専門学校 学校関係者評価委員会は下記のとおり「学校関係者評価」を実施したので、これを報告いたします。

開催日時 令和元年9月27日(金)14:00~15:30

出席者	委員長	京都福祉専門学校	校長	丸	尚	晃	嗣
	委 員	京都府レクリエーション協会	副会長	Щ	本	満	佐 子
	委 員	北宇治地域包括支援センター	センター長	森	下	良	亮
	委 員	学校法人南京都学園	企画室次長	中	本	敦	史
	委 員	京都動物専門学校	副校長	大	塚	浩	也
	委 員	京都福祉専門学校	副校長	平	尾	克	英(書記)
	委 員	京都福祉専門学校	事 務 長	西	岡	さ	おり
	委 員	京都福祉専門学校	教務・学科主任	藤	田	佳	子
	委 員	京都福祉専門学校	進路指導主任	美	谷	島	正 行
	委 員	京都福祉専門学校	入試主任主任	古	Ш	竜	佑

### 校長以下8名出席

評価項目	説明及び評価・意見	対応等
1. 学校運営	(説明) 超高齢社会となり、施設の職員 不足や学校も生徒確保の難しさを 説明。 (意見・評価) 介護の人材不足は国として根本 的に考えなければならない問題と 認識している。	養成校として堅実に専門教育を 遂行し、一人ひとりの生徒に対して 親身に対応していくことが、ひいて は介護分野の発展に繋がるものと 思っている。
2. 教育活動 (カリキュラム編成)	(説明) 教科「人間関係とコミュニケー ション」2年次30時数を60時数 に変更。 「社会の理解」2年次通年を 「社会の理解Ⅰ」1年次後期、「社 会の理解Ⅱ」2年次前期に変更し たことを説明 本校の選択科目「京の文化」「福 祉セラピーA・B」「レクリエーショ	特に重要な教科については段階 を踏んで着実に進めて行く。 選択科目については、介護福祉士 として求められる資質を備えるた

ン介護士」等の特色科目の説明 め従来通り修業し、介護の現場で活 かせるような内容に工夫していく。 (意見・評価) 介護福祉士に必要なコミュニケ ーション能力や社会の理解を重要 視するのは当然である。また、特 色ある授業も大切と考える。 3. 学修成果 (説明) (教育指導) 日々の学習成果は各授業内で定 各教科授業では、シラバスに則り (資格) 期的に小テストを実施し、年2回 進行しているが、過去の国試問題等 の試験を実施している。 を取り入れながら行っている。さら また、国試に向けての対策授業 に国家試験対策授業の実施や2年次 においては定期的な学内試験を実 は年内で授業を終わらせ、体調及び 施し、外部試験では年に数回の模 気持ちも1月末の国家試験に焦点を 擬試験を受け、着実に実力をつけ 合わせている。 ていけるよう指導している。 資格については、介護福祉士を 関連資格については、京の文化や 主として関連資格も多く設定して セラピーを取り入れた特色ある授 いる。 業を継続して展開していく。就職 後、オールラウンドで活躍できる介 (意見・評価) 護福祉士としての資質を高めてい 教科毎に小テストを実施してい く。 るのは良いと思う。国家試験の合 格率が高いのは日々の積み重ねの 結果だと思う。 4. 生徒支援 (説明) 2年間で10週間の施設実習にお 段階ごとにレベルアップしてい (施設実習) (介護福祉士修学支援制度) いては区分 I -①、区分 II -①、区 く中で、生徒にとって記録を書くこ 分Ⅱ-②と3回に亘って実施。 とが重労働である。しかし、施設の 個々の生徒に合った施設への配置 指導者からのアドバイスや教員巡 を考えている。 回訪問、帰校日において生徒の気持 ちを十分に把握しながら担当教員 が綿密な指導を行っている。 介護福祉士修学資金制度につい 介護福祉士修学資金は生徒及び 親御さんにとって非常に有利な奨 ては、京都府の次年度予算に基づ いて実行されるため、慎重に取り 学金制度であるため、今後も慎重か 扱う必要がある。京都府において つ有効利用をしていきたい。 は今年度から外国人留学生にも対 また、外国人留学生においても活用 応しているため有効に利用したい していきたいと考えている。 と考えている。 (意見・評価) 介護実習では途中でリタイアす る生徒はいるのでしょうか。京都 福祉の生徒は学内での生活支援技 術がしっかりとできているため質 が良いと聞いております。

# 5. 教育環境 (施設設備)

(ICT 活用)

#### (説明)

開校以来24年目を迎え介護福祉士養成のために建設された施設であり、特に老朽化もなく学習しやすい造りとなっている。

介護実習室・入浴実習室の広さが 十分に確保されており、また3階 の講堂ではレクリエーションや実 習報告会・地域連携イベント等さ まざまな学校行事で利用してい る。

ICT については昨今の様々な分野において活用されつつあり、介護の現場ではロボットを利用している施設も増加傾向にある。人とロボットのコラボに ICT を組み合わせた効率の良い安心安全な介護を目指し、可能な限り時代のニーズに合わせた教育を行っていくことも視野にいれている。

#### (意見・評価)

校舎は落ち着いた雰囲気であり、生徒が学習し易い環境が整っている。

今後も充実した施設設備を有効 に使用していく。空調及び電気関係 の不具合が今のところ目立たない が、老朽化に備えその都度部分的に 改善していくことも検討している。 また、単年度の事業計画や中長期計 画にも組み込み、常に安定した教育 ができるよう心掛けている。

現在は一般的なパワーポイントを使用しているが、今後はICT教育を取り入れていくのも良いとは考えている。しかし、ICTのみに頼るのではなく、それぞれの教員が授業の中で使い分け、人(教員)の手助け的な感覚で取入れることがベストで、効率的な側面からも生徒が理解し易い授業をすることが求められる。

#### 6. 生徒の受入れ募集

#### (説明)

超高齢社会を迎えている日本では、介護分野の生徒の受入れ募集は非常に難しい状況である。介護の現場に質の高い人材を送り出すためには養成校で学習し、さまざまな知識を習得することが求められている。今後も専門職の必要性と介護の魅力を発進し定員充足率を上げ、全員介護の現場に送り出すことを目指している。

#### (意見・評価)

全国的にみても介護の養成校は 非常に生徒確保が難しいと聞いて いる。人生100年時代、日本の介 護はまずは日本人で対応するとい う基本的なことを優先的に考えて いただきたい。 現在、2025年問題が問われている 昨今ではあるが、介護の質と量を合 わせて確保しなければならないと いう非常に難しいことが起こって いる。

介護人材が55万人不足。しかも、 後期高齢者の内、4人に1人が認知 症という病気になるとも言われて いる。このことは、質を確保しなが ら量を求めることが重要で、逆にな れば日本の介護は衰退していくと 考える。地道な活動ではあるがさま ざまな施策で介護の魅力を発進し、 専修学校専門課程の基本的な基準 を崩すことなく質の高い生徒の養 成を行っていく。

#### 7. 社会貢献·地域貢献

#### (説明)

現在、「宇治けんこう楽学広場」では地域の方を学校に招き、健康いきいき体操やレクリエーションなどを実施している。

また、「宇治地域福祉研究所(学校 de カフェ」では、今地域が抱えている諸問題をテーマに専門家を招き、勉強会を実施し参加した人が互いにお茶を飲みながら話せる場を設け、少しでも心が和むようなことになればと学校開放を行っている。

#### (意見・評価)

京都福祉専門学校は厚生労働省 認可の介護福祉士養成校であると ともに、文部科学省認可の「職業 実践専門課程」いわゆる産学連携 を実践し、地域とも交流があり、 まさに地域密着型の専修学校であ る。 超高齢国・核家族化・老々介護・独居老人というような日本の社会では改善しなければならない問題が山積している中で、介護の養成校が果たすべき役割をしっかりと認識し、基本路線から外れることなく着実に進んでいくことが社会貢献に繋がるものと確信している。地域のことを知り、少しでも連携することで社会が求める教育が出来ればと日々努力の積み重ねである。

以上